

施策評価調書(1)

評価対象年度	29年度
--------	------

めざす姿	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち”
施策名	5 地域資源の活用
施策関係課	(市長室)広報課／(経済部)産業労働政策課・産業振興課／(生涯学習部)文化推進室・文化財課

●施策の基本方針(目標)

本市が持つ多種多様な魅力と誇りを育み、市内外に発信していくことで、多くの交流や活動を生み出し、まちを元気にしていきます。

●目標指標								
指標①	名称	この施策の推進が図られていると感じる人の割合(市民意識調査)			単位	%	指標の種別	成果
	目標値	現状値を上回る(平成32年度)		現状値	30.9(平成27年度)		達成状況	/
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)		
	実績値	31.1	30.2					
指標②	名称	記者会見・記者発表・資料提供件数			単位	件	指標の種別	活動
	目標値	420(平成32年度)		現状値	379(平成26年度)		達成状況	/
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)		
	実績値	368	309					
指標③	名称	1110city.comのページビュー月平均件数			単位	件	指標の種別	結果
	目標値	84,000(平成32年度)		現状値	76,402(平成25年度)		達成状況	/
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)		
	実績値	32,082	19,969					
指標④	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	/
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)		
	実績値							
指標⑤	名称				単位		指標の種別	
	目標値			現状値			達成状況	/
	年度	28年度末時点の値	29年度末時点の値	30年度末時点の値	31年度末時点の値	32年度(目標年度)		
	実績値							

*「達成状況」: 目標年度に判定します。(目標値達成を「達成」、目標値未達を「未達成」)

	(単位:千円)	28年度決算額	29年度決算額	30年度予算額	31年度計画額	32年度計画額
事業額	事業費	164,134	181,387	310,778	173,026	/
	概算人件費	139,912	149,988	145,218	139,135	/
	総事業費	304,046	331,375	455,996	312,161	/

*前年度に「完了」「休止」「廃止」となった事業額についても合算されています。

総合評価	評価結果	単位施策ごとの評価結果			総合評価の区分
	B	単位施策① 55	単位施策② 50	単位施策③ 56	結果(平均値)が55以上:A 結果(平均値)が50以上55未満:B 結果(平均値)が40以上50未満:C 結果(平均値)が40未満:D
	(前回評価結果)	単位施策④	単位施策⑤	結果(平均値)	
	B			53.7	

施策評価調書(2)

評価対象年度 29年度

施策を構成する実施計画事業の状況

(単位:千円)

単位施策名 ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施									
事業コード	事業名称	担当課	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	29年度	30年度
			事業費 (決算額)	事業費 (決算額)	事業費 (予算額)	事業費 (計画額)	事業費 (計画額)		
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	総評価	方向性
35100103	シティプロモーション事業	市長室 広報課	17,503	46,808	49,003	49,003		54	拡充して 実施
			11,890	11,310	11,455	11,455			
35100202	観光事業	経済部 産業振興課	21,889	8,406	96,999	9,652		56	拡充して 実施
			15,990	14,040	18,170	14,220			
35100301	その他広報事業	市長室 広報課	10,399	10,766	11,643	11,643		56	現状維持 で実施
			5,330	5,070	5,135	5,135			

単位施策名 ② 歴史的資源の保護と活用									
事業コード	事業名称	担当課	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	29年度	30年度
			事業費 (決算額)	事業費 (決算額)	事業費 (予算額)	事業費 (計画額)	事業費 (計画額)		
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	総評価	方向性
35200102	伊奈半十郎忠治像建立 事業	生涯学習部 文化推進室	1,588	6,140	1,145	—		46	現状維持 で実施
			902	858	948	—			
35200202	郷土資料館施設運営費	生涯学習部 文化財課	4,559	3,552	6,016	3,784		48	拡充して 実施
			15,580	14,820	15,010	15,010			
35200301	史跡等管理事業	生涯学習部 文化財課	15,551	16,826	16,662	16,513		51	拡充して 実施
			4,100	3,900	3,950	3,950			
35200401	赤山城跡保存整備事業	生涯学習部 文化財課	28,957	3,570	16,513	16,513		49	拡充して 実施
			4,100	3,900	3,950	3,950			
35200501	遺跡発掘調査事業	生涯学習部 文化財課	8,266	7,643	9,513	9,511		58	現状維持 で実施
			22,140	21,060	21,330	21,330			
35200601	民俗文化財等調査事業	生涯学習部 文化財課	7,385	8,242	5,278	5,278		38	現状維持 で実施
			2,460	2,340	2,370	2,370			
35200701	指定文化財候補物件 調査事業	生涯学習部 文化財課	460	925	380	380		46	拡充して 実施
			4,100	3,900	3,950	3,950			
35200801	文化財センター 施設運営費	生涯学習部 文化財課	1,992	1,209	2,484	2,484		48	拡充して 実施
			13,120	12,480	12,640	12,640			
35200901	歴史的建造物施設運営費	生涯学習部 文化財課	795	576	633	633		58	拡充して 実施
			5,740	5,460	5,530	5,530			
35201001	文化財保管倉庫等管理費	生涯学習部 文化財課	723	707	965	965		46	現状維持 で実施
			7,380	7,020	7,110	7,110			
35201101	その他文化財保護費	生涯学習部 文化財課	4,078	2,583	2,120	2,120		56	拡充して 実施
			3,280	3,120	3,160	3,160			
35201201	古文書資料収集保管事業	生涯学習部 文化財課	2,056	2,829	247	247		46	効率化して 実施
			6,570	6,530	6,590	6,590			
35201301	古文書解読事業	生涯学習部 文化財課	2,398	2,742	1,954	1,954		53	効率化して 実施
			6,570	6,530	4,220	4,220			
35201401	歴史自然資料館 開設準備事業	生涯学習部 文化財課	—	14,451	—	—		48	完了
			—	9,360	—	—			
35201501	文化的景観推進事業	生涯学習部 文化財課	—	8,122	18,459	6,582		52	拡充して 実施
			—	7,760	7,850	7,850			

単位施策名 ③ SKIPシティを活用した地域の活性化									
事業コード	事業名称	担当課	28年度 事業費 (決算額)	29年度 事業費 (決算額)	30年度 事業費 (予算額)	31年度 事業費 (計画額)	32年度 事業費 (計画額)	29年度 の 総評価	30年度 の実施 方向性
			概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費	概算人件費		
35300102	NHK跡地整備事業	経済部	5,350	5,105	6,119	6,119		54	縮小して 実施
		産業労働政策課	4,920	4,680	4,740	4,740			
35300202	映画祭関連事業	経済部	25,000	25,000	60,000	25,000		58	拡充して 実施
		産業労働政策課	4,510	4,290	5,530	4,345			
35300302	映像関連普及事業	経済部	5,185	5,185	4,645	4,645		56	現状維持 で実施
		産業労働政策課	1,230	1,560	1,580	1,580			

実施計画事業評価調査

評価対象年度	29年度
--------	------

事業コード	35100103	事業名称	シティプロモーション事業	事業区分	主要な事業 総合戦略C
担当	市長室	広報課	問い合わせ先	2231	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 27 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民及び市外在住者	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	若者世代の流出を阻むように市の魅力を向上させる他、若者世代の定住促進に留まらず一人でも多くの若者世代、子育て世代の人々、そして本市の伝統であるものづくり産業の担い手、操業者・起業者等を市外から本市により多く呼び込むことを目的とする。	・誘客情報サイト「1110city.com」を基盤とした情報発信・川口市マスコット「きゅぼらん」を活用したPR活動・定住促進冊子を活用した本市知名度の向上・市内外の広告ビジョン、鉄道車両内や駅構内のモニターを用いた本市PR動画の放映、イルミネーション「かわぐち光のファンタジー」(H29～) など		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・誘客情報サイト「1110city.com」を基盤とした情報発信・「きゅぼらん」を活用したPR活動・定住促進冊子を活用した本市知名度の向上・市内外の広告ビジョン、鉄道車両内や駅構内のモニターを用いた本市PR動画の放映、イルミネーション「かわぐち光のファンタジー」	項目	実績	単位
		誘客情報サイトのページビュー件数	19,968	件
事業の成果【定性的評価】	定住促進冊子やPR動画が報道機関に取り上げられ、インターネットやツイッター上で好評価を得られている。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	誘客情報サイトのページビュー件数			指標・目標値の説明(算定式)	誘客情報サイト「1110city.com」のページを閲覧した年度累計数の月平均件数(件)					
	単位	件	指標の種別	結果							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況	32,082	未達成	19,968	未達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	02款	01項	10目	002細目	04細々目	シティプロモーション事業			
年度	27年度	28年度			29年度		30年度		31年度	
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		18,623			48,300		49,003		49,003	
決算額(B)		17,503			46,808					
財源	特定財源	2,549			2,417		2,711			
	一般財源	14,954			44,391		46,292			
概算人件費(C)	11,890			11,310		11,455		11,455		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.45	0.00	1.45	0.00	1.45	0.00	1.45	0.00
総事業費(A又はB+C)	29,393			58,118		60,458		60,458		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	各種調査によると、依然として川口市の知名度は高いとは言えない状況である。交流・定住人口を増加させるには、川口市をより広く周知する必要があるため、誘客情報サイト「1110city.com」をより使いやすくするリニューアルやさらなるPR動画の作成等、従来の事業内容をさらに強化していく。	30年度 拡充して実施 31年度 現状維持で実施 32年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35100202	事業名称	観光事業	事業区分	主要な事業 政策宣言12
担当	経済部	産業振興課	問い合わせ先	2034	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施			
根拠法令等	地域資源活用事業補助金交付要綱、川口まちかど観光案内所事業実施要綱、川口宿場ヶ谷宿日光御成道まつり実行委員会補助金交付要綱			

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市外からの観光客及び市民	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)	
	本市に特徴のある様々な地域資源(観光資源)を活用した観光振興に取り組むことで、魅力ある訪れたいまち、選ばれるまちの実現を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 観光PR促進事業 地域資源を活用した事業への団体補助金 歴史的財産を活用したイベントである「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」の準備、PR まちかど観光案内所事業 	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	<ul style="list-style-type: none"> 観光PR促進事業として、外国人観光客の誘致を目的とし、観光ルートマップの多言語版(英語・中国語・韓国語)を作成。 地域資源(観光資源)を活用した事業を行う地域団体に対し、対象経費の50%(上限200,000円)を助成。 「川口宿 鳩ヶ谷宿 日光御成道まつり」のPR活動 	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	地域資源を活用したイベント等により、市外から多くの来場者が訪れ、観光誘客に繋がったとともに、市民の地域愛の醸成に寄与した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	地域資源活用事業補助金交付件数			指標・目標値の説明(算定式)	地域資源を活用した事業を行う地域団体への助成。
	単位	件	指標の種別	結果		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況	2	未達成	5	未達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	004細目	01細々目	観光事業	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		23,733		9,478		96,999		9,652
決算額(B)		21,889		8,406				
財源	特定財源	0		0		0		
	一般財源	21,889		8,406		96,999		
概算人件費(C)		15,990		14,040		18,170		14,220
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.95	0.00	1.80	0.00	2.30	0.00
総事業費(A又はB+C)		37,879		22,446		115,169		23,872

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	観光物産協会、商工団体、緑化団体、商店街等と協力・連携し、地域資源を活用する事業を展開する必要がある。発展した事業を展開するため、情報共有・収集に努め、連携した事業展開を目指す。	30年度 拡充して実施 31年度 効率化して実施 32年度 効率化して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35100301	事業名称	その他広報事業			事業区分	通常事業
担当	市長室	広報課	問い合わせ先	2231	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ① 地域資源を活用したシティプロモーションの実施
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	川口市掲示板等を利用し、行政情報を提供するもの。	市内の約1,000基ある掲示板の維持管理及び市発行ポスターの貼付	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	毎月1～15日、16日～月末の2回を期間に市発行ポスターを貼付した。また、町会からの要望で随時、掲示板の新設・移設・修繕等を行った。	項目	実績 単位
		掲示板設置箇所数	1,000 基
事業の成果【定性的評価】	掲示板は市内の人目に付きやすい場所を利用して設置しており、広報効果は極めて高い。市内外に各種市政情報を提供することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	掲示板設置箇所数			指標・目標値の説明(算定式)	掲示板設置箇所数(箇所)					
	単位	基	指標の種別	活動							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況	1,000	達成	1,000	達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	02款	01項	10目	002細目	05細々目	その他広報事業			
年度	27年度	28年度			29年度		30年度		31年度	
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		10,718			10,818		11,643		11,643	
決算額(B)		10,399			10,766					
財源	特定財源	0			0		0			
	一般財源	10,399			10,766		11,643			
概算人件費(C)		5,330			5,070		5,135		5,135	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.65	0.00	0.65	0.00	0.65	0.00	0.65	0.00
総事業費(A又はB+C)		15,729			15,836		16,778		16,778	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	屋外での事業のため、風雨による破損やいたずら等のリスクを内包している。物理的な情報提供であるが、市ホームページとの連携を模索する等、より効果的な情報提供の検討も必要である。	30年度	現状維持で実施
		31年度	現状維持で実施
		32年度	現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度	29年度
--------	------

事業コード	35200102	事業名称	伊奈半十郎忠治像建立事業			事業区分	主要な事業 政策宣言12
担当	生涯学習部	文化推進室	問い合わせ先	#72-2112	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 26 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民及び来訪者	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	本市に縁のある偉人であり、赤山陣屋の初代として関東郡代の基礎を築いた、伊奈半十郎忠治を顕彰しその功績を称え、像を建立することにより、市民に郷土の歴史を広く周知し、文化・郷土学習の推進及び郷土愛の育成を図り、併せて川口市のシンボルを目指す。	伊奈半十郎忠治像の銅像を建立する。	
29年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・伊奈半十郎忠治像コーディネート委託 ・伊奈半十郎忠治像原型制作委託 ・伊奈半十郎忠治像鑄造制作委託	項目	実績 単位
事業の成果【定性的評価】	川口市在住の彫刻家とコーディネーターに原型制作を依頼し、その原型より鑄造制作を委託し、像を完成させた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別					
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	11目	002細目	06細々目	伊奈半十郎忠治像建立事業	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		5,940		6,565		1,145		—
決算額(B)		1,588		6,140				
財源	特定財源	0		0		0		
	一般財源	1,588		6,140		1,145		
概算人件費(C)		902		858		948		—
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.11	0.00	0.11	0.00	0.12	0.00
総事業費(A又はB+C)		2,490		6,998		2,093		—

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	3 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行わなかった	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	平成30年度に銅像を設置し、完了となるが、今後は関係各課と調整しながら伊奈氏の功績を広く周知する。	30年度 現状維持で実施 31年度 完了 32年度 —

実施計画事業評価調書

評価対象年度	29年度
--------	------

事業コード	35200202	事業名称	郷土資料館施設運営費	事業区分	主要な事業 政策宣言12
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	昭和	56	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用				
根拠法令等	川口市立文化財センター設置及び管理条例				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民等	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	市民に郷土の歴史・民俗・文化についての理解、文化財愛護の精神を深めてもらうとともに、収蔵資料を後世に伝えるもの。	文化財資料の展示・学習会・収蔵を行う施設として郷土資料館を運営する。		
29年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	企画展2回(母なる芝川展・思い出の川口展)、講座2回(芝川歴史探訪・川口鋳物の名品を訪ねる)を実施した。	項目	実績	
		企画展	4,189	人
		講座	41	人
事業の成果【定性的評価】	市民に郷土川口の歴史・民俗・文化について理解を深めていただくとともに、文化財愛護精神の高揚に寄与できた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	郷土資料館実施事業来館・参加者数			指標・目標値の説明(算定式)	郷土資料館実施事業来館・参加者数					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況	3,874	達成	5,380	達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	007細目	01細々目	郷土資料館施設運営費				
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		32年度	
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額				4,873	3,776	6,016	3,784				
決算額(B)				4,559	3,552						
財源	特定財源			1,032	1,102	1,104					
	一般財源			3,527	2,450	4,912					
概算人件費(C)				15,580	14,820	15,010	15,010				
従事職員人数(人)	常勤	再任用		1.90	0.00	1.90	0.00	1.90	0.00	1.90	0.00
総事業費(A又はB+C)				20,139	18,372	21,026	18,794				

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
48 /60	企画展の回数は例年通り2回であるが、展示会場を郷土資料館だけでなく、文化財センターをサテライト会場に2箇所にわたり実施し、延べ見学者の増をはかった。今後も、内容や実施方法を駆使し、充実させていきたい。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35200301	事業名称	史跡等管理事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・木曾呂の富士塚 ・赤山城跡	受益者(最終的に受益を受ける人) 市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために) 国指定重要有形民俗文化財である「木曾呂の富士塚」及び県の旧跡である「赤山城跡」の保存管理等を行うもの。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) 「木曾呂の富士塚」と「赤山城跡」保存整備事業区域内における樹木管理、用地施設の修理、土地の借上げ等を行う。	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・木曾呂の富士塚の管理を行った。 ・赤山城跡の管理を行った。 ・史跡修繕を行った。	主な実績	
事業の成果 【定性的評価】	用地借り上げ、樹木管理、修繕を行うことにより、本市の貴重な文化財である「木曾呂の富士塚」と「赤山城跡」の保護をはかることができた。	項目	実績 単位
		木曾呂の富士塚樹木管理	1,494 m ²
		赤山城跡樹木管理	28,845 m ²
		赤山城跡賃貸借	10,984.77 m ²

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	樹木管理面積			指標・目標値の説明(算定式)	国指定重要有形民俗文化財と県の旧跡の保存管理面積				
	単位	m ²	指標の種別	成果		28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	目標値					30,000	30,000	30,000		
	実績値・達成状況	30,339	達成	30,339	達成					
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位		指標の種別			28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	目標値									
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	002細目	01細々目	史跡等管理事業			
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		15,772		16,836		16,662		16,513		
決算額(B)		15,551		16,826						
財源	特定財源	0		0		0				
	一般財源	15,551		16,826		16,662				
概算人件費(C)		4,100		3,900		3,950		3,950		
従事職員人数(人)		常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00	
総事業費(A又はB+C)		19,651		20,726		20,612		20,463		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	12 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
51 /60	史跡の管理面積が広大で、年々増加傾向にあり、箇所ごとの適切な管理が必要である。今後は、活用をはかるべく保存整備工事が検討される。	30年度	拡充して実施
		31年度	拡充して実施
		32年度	拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35200401	事業名称	赤山城跡保存整備事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 2 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、埼玉県文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	赤山城跡	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	県の旧跡で本市の重要な歴史遺産である「赤山城跡」の公有地化整備を行うもの。	「赤山城跡」の保存整備をはかるため、売却要望のある土地の購入を行う。	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	県指定旧跡赤山城跡の用地購入を行った。	項目	実績 単位
		赤山城跡用地購入	91.55 m ²
事業の成果 【定性的評価】	今年度購入した史跡用地は、西堀に接する遊歩道の一部であり、史跡の保存をはかるとともに、活用に供することができ、県旧跡に対する市民意識向上にもつながった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	公有地化			指標・目標値の説明(算定式)	旧跡の公有地化
	単位	m ²	指標の種別	結果		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況	958	91	359.78		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	002細目	02細々目	赤山城跡保存整備事業
年度	27年度	28年度		29年度		30年度	
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		28,969		4,055		16,513	
決算額(B)		28,957		3,570			
財源	特定財源	0		0		0	
	一般財源	28,957		3,570		16,513	
概算人件費(C)		4,100		3,900		3,950	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50
総事業費(A又はB+C)		33,057		7,470		20,463	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	12 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
49 /60	保存整備対象地が128,502m ² と広大なため、堀と遊歩道を優先して公有地化をはかっているが、買収に年月を要するため、有効な活用を考えた購入を行う。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35200501	事業名称	遺跡発掘調査事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	埋蔵文化財緊急調査国庫補助要綱、文化財保存事業費補助金交付要綱

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	発掘調査を伴う個人宅造の市民等、各種開発に伴い埋蔵文化財範囲確認調査を必要とする市民等・団体	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	各種開発事業に伴う、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地を確認するための範囲確認調査や埋蔵文化財の記録保存をはかるもの。	各種開発事業に伴い、市内に所在する埋蔵文化財包蔵地を確認するための範囲確認調査や記録保存のための遺跡の発掘調査を実施する。また、発掘調査により出土した遺物等の整理作業を行うとともに記録にまとめ、報告書を刊行する。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	個人住宅に伴う発掘調査1件、範囲確認調査23件と平成28年度実施調査の整理作業及び報告書を刊行した。なお、上記の件数は文化財課予算で実施した調査件数であり、他にも開発原因者負担による調査(発掘5件、報告書5冊)を実施している。	項目	実績	単位
		個人住宅に伴う発掘調査	1	件
事業の成果 【定性的評価】	埋蔵文化財の保存・活用がはかれた。	各種開発に伴う範囲確認調査	23	件
		実施調査整理作業及び報告書刊行	1	冊

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	範囲確認調査の件数			指標・目標値の説明(算定式)	範囲確認調査は、開発行為に伴い実施するものであり、目標値を事前に設定できないため、年度実績を便宜上、目標値とする。	
	単位	件	指標の種別	結果			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度
	実績値・達成状況	29	達成	23	達成		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)		
	単位		指標の種別				
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	
	実績値・達成状況						

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	003細目	01細々目	遺跡発掘調査事業	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額			8,573	9,510		9,513		9,511
決算額(B)			8,266	7,643				
財源	特定財源		3,000	2,925		2,800		
	一般財源		5,266	4,718		6,713		
概算人件費(C)			22,140	21,060		21,330		21,330
従事職員人数(人)	常勤		2.70	0.00		2.70		0.00
	再任用							
総事業費(A又はB+C)			30,406	28,703		30,843		30,841

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
58 /60	近年、開発の進展に伴い、事業数が増傾向にあるが、埋蔵文化財発掘調査の有資格者2名で担当せざるをえない状態が続いている。効率的な対応に努めているが、担当職員の増員等の抜本的な改善策が必要である。	30年度 現状維持で実施 31年度 現状維持で実施 32年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35200601	事業名称	民俗文化財等調査事業			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 3 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	文化財資料	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	市内に所在する民俗文化財や鋳物関係資料等の文化財資料を調査し保護するため。	民俗文化財資料等について現地調査を行い、記録する。また、収集した資料について、洗浄、メンテナンス、調査し台帳に整理し、収蔵・保管する。	
29年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・民俗文化財の調査・整理を行った。 ・資料リストの作成を行った。	項目	実績 単位
		民俗資料整理	5,121 点
事業の成果【定性的評価】	収集した民俗文化財資料を調査・整理・記録し、報告・展示・活用したことにより、市民の文化財愛護精神と郷土愛を育めた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	民俗資料整理点数			指標・目標値の説明(算定式)	民俗資料整理点数					
	単位	点	指標の種別	活動							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況	2,653	達成	5,121	達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	003細目	02細々目	民俗文化財等調査事業				
年度	27年度	28年度			29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		8,184			8,599		5,278		5,278		
決算額(B)		7,385			8,242						
財源	特定財源	0			0		0				
	一般財源	7,385			8,242		5,278				
概算人件費(C)		2,460			2,340		2,370		2,370		
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00	0.30	0.00
総事業費(A又はB+C)		9,845			10,582		7,648		7,648		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	どちらともいえない	11 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	11 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	3 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行わなかった	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
38 /60	民俗文化財資料未整理が未だ1000点位ある。これは民俗文化財基礎調査であり、中には指定文化財の価値を有するものもあることから、今後指定も検討していきたい。	30年度 現状維持で実施 31年度 現状維持で実施 32年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35200701	事業名称	指定文化財候補物件調査事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先 222-2421	新規・継続	継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	文化財資料	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	市内に所在する指定候補文化財等の現地調査を行い、文化財の保存をはかるため。	市内に所在する指定候補文化財を文化財保護審議会委員等の専門家に依頼し、調査する。その成果を報告書にまとめ、教育委員会の諮問に基づく文化財保護審議会における審議会の資料とし、審議結果を答申する。指定文化財等の現地調査をする。		
29年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) ・指定候補物件調査を行った。 ・市内文化財現況調査を行った。	主な実績		
		項目	実績	単位
		織物調査		4 回
		铸件調査		3 回
歴史的建造物調査		76 回		
事業の成果【定性的評価】	本市の歴史・文化や地域的特色を示す文化財を指定したことにより、文化財を保護し、併せて将来市民の文化財愛護精神と郷土愛を高揚させる一助となった。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	調査回数			指標・目標値の説明(算定式)	文化財調査回数
	単位	回	指標の種別	活動		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況	8	達成	83	達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	003細目	03細々目	指定文化財候補物件調査事業	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		460		925		380		380
決算額(B)		460		925				
財源	特定財源	0		0		0		
	一般財源	460		925		380		
概算人件費(C)		4,100		3,900		3,950		3,950
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.50	0.00	0.50	0.00	0.50	0.00
総事業費(A又はB+C)		4,560		4,825		4,330		4,330

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	9 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	本市の歴史と地域的特色を示す文化財資料は様々なものがあり、現在地場産業にかかわる文化財を優先的に調査している。今後、効率的に実施していく必要がある。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35200801	事業名称	文化財センター施設運営費	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民等	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	市内に所蔵する資料を文化財センターに収集・保管し、展示・活用する施設として運営するもの。	文化財資料の整理作業を実施し、活用・収蔵を行う。また市民に文化財の大切さを周知するために、文化財に関する講座等の開催のほか、企画展を開催する。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	展示・学習会・資料収蔵を行う施設として文化財センターを運営した。	項目	実績	単位
		調査報告会	58	人
		郷土資料館と連携した展示	2,226	人
	来館者数	4,922	人	
事業の成果【定性的評価】	市民を対象とした文化財調査報告会を開催し、文化財に接し理解を深めていただく機会を提供した。また、文化財センター等を会場として、小・中学生対象の歴史教室を実施し、また社会科見学に対応し、文化財愛護の精神を養った。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	文化財センター来館者数			指標・目標値の説明(算定式)	来館者数
	単位	人	指標の種別	結果		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況	4,903	達成	4,922	達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	004細目	01細々目	文化財センター施設運営費	
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度			
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額			2,319	1,228	2,484		2,484	
決算額(B)			1,992	1,209				
財源	特定財源		241	193	500			
	一般財源		1,751	1,016	1,984			
概算人件費(C)			13,120	12,480	12,640		12,640	
従事職員人数(人)	常勤	再任用	1.60	0.00	1.60	0.00	1.60	0.00
総事業費(A又はB+C)			15,112	13,689	15,124		15,124	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	7 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行わなかった			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行わなかった			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
48 /60	平成29年度は、郷土資料館と連携した展示を行い、また常設展示も一部増設し、来館者数の増加に努めた。今後も、内容の充実をはかり、来館者の増加につなげたい。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 拡充して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35200901	事業名称	歴史的建造物施設運営費	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 18 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法、川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	市民等	同左		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	国登録有形文化財「旧田中家住宅」の保存・活用を行うもの。	大正期に建設された「旧田中家住宅」の文化財としての魅力を多くの人に感じてもらうための活動事業や、また、文化財を保存するため活動しているボランティア団体「魅がきたい」への支援などを行う。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	<ul style="list-style-type: none"> 端午の節供事業を行った。 桃の節供事業 茶会を行った。 各種共催事業を行った。 ボランティア団体「魅がきたい」の活動支援を行った。 	項目	実績	単位
		節供と茶会参加者数	2,211	人
		共催イベント参加者数	1,683	人
ボランティア団体活動参加者数	116	人		
事業の成果【定性的評価】	国登録有形文化財「旧田中家住宅」の魅力を広くPRし、市民の文化財愛護精神と市民文化の向上に寄与した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	旧田中家住宅来館者数			指標・目標値の説明(算定式)	来館者数					
	単位	人	指標の種別	結果							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況	7,065	達成	7,973	達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	005細目	01細々目	歴史的建造物施設運営費			
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		848		593		633		633		
決算額(B)		795		576						
財源	特定財源	0		0		0				
	一般財源	795		576		633				
概算人件費(C)		5,740		5,460		5,530		5,530		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00	0.70	0.00
総事業費(A又はB+C)		6,535		6,036		6,163		6,163		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待以上	15 /15
	市民関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
58 /60	旧田中家住宅の活用は、市民に文化財の価値を知っていただくうえで重要であるとともに、市民文化の向上において大変有益である。今後は、施設の活用・運営にも民間活力を取り入れながら、魅力ある推進事業を推進し、市内外の多くの人々が訪れる文化事業となるよう検討する必要がある。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35201001	事業名称	文化財保管倉庫等管理費			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 2 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち義務的なもの	実施形態	一部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	文化財資料	市民等	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	寄贈・寄託された文化財資料や埋蔵文化財資料の遺物を収集・保管するため、また文化財の整理作業を行なうため。	文化財整理事務所(1ヶ所)、文化財収蔵庫(5ヶ所)の管理を行うもの。	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	文化財保管庫を維持管理し、文化財資料を保管した。	項目	実績 単位
事業の成果 【定性的評価】	文化財整理事務所、文化財収蔵庫を適切に管理することにより、文化財資料の保存を実施できた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)	
	単位	指標の種別		
	目標値	28年度	29年度	30年度 31年度 32年度
	実績値・達成状況			
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)	
	単位	指標の種別		
	目標値	28年度	29年度	30年度 31年度 32年度
	実績値・達成状況			

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	006細目	01細々目	文化財保管倉庫等管理費			
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		726		910		965		965		
決算額(B)		723		707						
財源	特定財源	0		0		0				
	一般財源	723		707		965				
概算人件費(C)		7,380		7,020		7,110		7,110		
	従事職員人数(人) 常勤 再任用	0.90	0.00	0.90	0.00	0.90	0.00	0.90	0.00	
総事業費(A又はB+C)		8,103		7,727		8,075		8,075		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行わなかった	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
46 /60	現在文化財保管倉庫は、数多くの文化財資料を数箇所に分けて管理しているが、収蔵スペースも限界であり、効率性を考えると、ある程度の規模の保管倉庫に集約化していく必要がある。	30年度 現状維持で実施 31年度 現状維持で実施 32年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35201101	事業名称	その他文化財保護費			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成	元	年度	～	年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用				
根拠法令等	川口市文化財保護条例、川口市管理維持費交付要綱、川口市文化財保存事業費交付要綱				

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの		実施形態	補助金・負担金	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)		受益者(最終的に受益を受ける人)		
	指定文化財所有者、保持団体		市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)		事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	指定文化財を維持管理・修理・活用するための費用の補助金交付を行うもの。		指定文化財管理維持費、無形民俗文化財保存継承費、文化財保存事業費補助金の交付を行う。また、文化財説明板の設置、各協議会負担金の交付を行う。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)		主な実績		
	・指定文化財補助金交付事業を行った。		項目	実績	単位
			指定文化財管理維持費補助金交付件数	82	件
			無形民俗文化財保存継承費補助金交付件数	5	件
		文化財保存事業費補助金交付件数	3	件	
事業の成果 【定性的評価】	指定文化財所有者・保持団体に補助金・交付金を交付したことにより、指定文化財が保護された。				

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	指定文化財補助金交付件数			指標・目標値の説明(算定式)	指定文化財補助金交付件数
	単位	件	指標の種別	活動		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況	88	88	90	88	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	008細目	01細々目	その他文化財保護費	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		4,089		2,583		2,120		2,120
決算額(B)		4,078		2,583				
財源	特定財源	0		0		0		
	一般財源	4,078		2,583		2,120		
概算人件費(C)		3,280		3,120		3,160		3,160
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.40	0.00	0.40	0.00	0.40	0.00
総事業費(A又はB+C)		7,358		5,703		5,280		5,280

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
56 /60	指定文化財を次世代に伝えていくうえでの課題を把握し、適切な交付・文化財保護支援を検討していきたい。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 拡充して実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35201201	事業名称	古文書資料収集保管事業			事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にした“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	本市に残された古文書、及び文化財課古文書係で保管する古文書	市民、及び本市の歴史に関心をもつ市外在住者		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	本市の歴史を解明する上で不可欠な古文書を調査・収集し、収集した古文書を最適な形で後世に伝えるため。	本市に残された古文書の調査・収集・整理		
29年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	本市に残された古文書の調査・収集、文化財課で保管する古文書の再整理	項目	実績	単位
		古文書の収集	3	件
古文書のデータ処理	91	点		
事業の成果【定性的評価】	本市に残された古文書を新たに3件、91点収集し、データ処理を行ったほか、寄託史料の再整理を行った。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	古文書の収集件数			指標・目標値の説明(算定式)	古文書の収集は、所蔵者からの調査依頼等によって適宜行われるものであり、目標値を事前に設定できないため、年度実績を便宜上、目標値とする。	
	単位	件	指標の種別	結果			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度
	実績値・達成状況	2	達成	3	達成		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)		
	単位		指標の種別				
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度		32年度
	実績値・達成状況						

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	002細目	01細々目	古文書資料収集保管事業	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		2,219		3,265		247		247
決算額(B)		2,056		2,829				
財源	特定財源	0		0		0		
	一般財源	2,056		2,829		247		
概算人件費(C)		6,570		6,530		6,590		6,590
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.50	0.60	0.50	0.60	0.50
総事業費(A又はB+C)		8,626		9,359		6,837		6,837

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	9 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	不明	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
46 /60	本市に残された古文書の調査・収集、文化財課で保管する古文書の整理は、今後も継続的に実施し、貴重な歴史史料をより良い形で後世に伝えていかなくてはならない。平成30年度の組織改正により古文書係が文化財保護係に統合されたため、更に効率的に実施する必要がある。	30年度	効率化して実施
		31年度	効率化して実施
		32年度	効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35201301	事業名称	古文書解説事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市文化財保護条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	直営
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	市民、及び本市の歴史に関心をもつ市外在住者	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	本市に残された古文書を解説し、後世に記録として残すほか、それを活用した事業を実施し、市民及び本市の歴史に関心をもつ人に広く公開するため。	専門家に依頼しての古文書解説・古文書講座の実施・解説した古文書を史料叢書として刊行	
29年度の実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	・古文書解説の推進 ・古文書講座の開催 ・川口市史料叢書第2集の編纂	項目	実績 単位
		古文書講座の開催	8 回
事業の成果【定性的評価】	古文書講座の参加者に本市に残された古文書の重要性について広く周知することができた。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	古文書講座の参加者			指標・目標値の説明(算定式)	開催要項において設定した募集人数					
	単位	人	指標の種別	成果							
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況	30	達成	60	達成						
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)						
	単位		指標の種別								
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度					
	実績値・達成状況										

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	09目	002細目	02細々目	古文書解説事業			
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		2,571		2,742		1,954		1,954		
決算額(B)		2,398		2,742						
財源	特定財源	0		0		0				
	一般財源	2,398		2,742		1,954				
概算人件費(C)		6,570		6,530		4,220		4,220		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.50	0.60	0.50	0.30	0.50	0.30	0.50
総事業費(A又はB+C)	8,968		9,272		6,174		6,174			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	12 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	活用の余地なし			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
53 /60	本事業の必要性・有効性は高いものの、平成30年度の組織改正により古文書係が文化財保護係に統合されたため、更に工夫を重ね、さまざまな取り組みを行う必要がある。	30年度	効率化して実施
		31年度	効率化して実施
		32年度	効率化して実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度	29年度
--------	------

事業コード	35201401	事業名称	歴史自然資料館開設準備事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続
					新規

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 29 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切に“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	川口市立文化財センター設置及び管理条例

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	歴史自然資料館	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をするのか)		
	平成30年4月の赤山歴史自然公園の一部供用開始に併せ、公園内に歴史自然資料館を開館するもの。	歴史自然資料館の開設準備。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	歴史自然資料館の展示室における展示製作委託業務、3月の施設引渡し後の機械警備委託業務、消火器設置を実施した。	項目	実績	単位
		展示室の展示製作委託		1 式
		機械警備委託(3月～)		1 式
	消火器		4 本	
事業の成果【定性的評価】	平成30年4月の歴史自然公園開園に併せ、歴史自然資料館を開館できた。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別						
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
	実績値・達成状況							
指標②	名称		指標・目標値の説明(算定式)					
	単位	指標の種別						
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度		
	実績値・達成状況							

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	010細目	01細々目	歴史自然資料館開設準備費	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		—		15,124		—		—
決算額(B)		—		14,451		—		—
財源	特定財源	—		0		—		—
	一般財源	—		14,451		—		—
概算人件費(C)		—		9,360		—		—
従事職員人数(人)	常勤	再任用	—		1.20	0.00	—	
総事業費(A又はB+C)		—		23,811		—		—

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	9 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
48 /60	赤山歴史自然公園開園に併せ、完成し開館できた。今後、内容等を充実していきたい。	30年度	完了
		31年度	—
		32年度	—

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35201501	事業名称	文化的景観推進事業	事業区分	通常事業
担当	生涯学習部	文化財課	問い合わせ先	222-2421	新規・継続
					新規

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 29 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ② 歴史的資源の保護と活用
根拠法令等	文化財保護法

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	安行の植木	市民等		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	本市の重要な地場産業のひとつである植木産業によって形成された風景を、「安行の植木」文化的景観として国重要文化的景観に選定を受けるため実施するもの。	「安行の植木」を国重要文化的景観に選定を受けるため、文化的景観調査、保存活用計画作成、普及啓発事業等を実施するもの。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	3か年事業の初年度は、文化的景観調査委員会を開催するとともに、基礎調査、環境調査、講演会等を実施した。	項目	実績	単位
		文化的景観調査委員会議	3	回
	講演会参加者	58	人	
事業の成果 【定性的評価】	「安行の植木」文化的景観の概要、環境、構成要素等の調査を実施した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	会議の実施回数			指標・目標値の説明(算定式)	文化的景観調査委員会議または保存活用検討委員会の実施回数
	単位	回	指標の種別	活動		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況		3	達成		
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	10款	06項	08目	009細目	01細々目	文化的景観推進事業	
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		—		8,137		18,459		6,582
決算額(B)		—		8,122				
財源	特定財源	—		4,060		9,228		
	一般財源	—		4,062		9,231		
概算人件費(C)	—		7,760		7,850		7,850	
	従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.90	0.20	0.90	0.20	0.90
総事業費(A又はB+C)	—		15,882		26,309		14,432	

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	受益者なし	9 /15
	業務プロセス改善	改善の余地なし			受益者負担の水準	受益者なし	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
52 /60	限られた期間の中で、効率的に調査、計画作成、所有者の景観選定への同意をいただかなければならない。	30年度 拡充して実施 31年度 拡充して実施 32年度 完了

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35300102	事業名称	NHK跡地整備事業			事業区分	主要な事業 政策宣言10
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	2447	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 11 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	さいたま新産業拠点整備計画、さいたま新産業拠点(SKIPシティ)B街区利用計画

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	一部委託	
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)		
	・事業者 ・地域住民 ・SKIPシティ来場者	・市民		
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)		
	・映像などのコンテンツに関する新しい産業創出や情報発信の拠点とするため。 ・地域住民等の利便性向上のため。	映像などのコンテンツに関する新しい産業創出や情報発信の拠点として整備・活用するほか、地域住民等の利便性向上のために整備を図る。		
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績		
	・SKIPシティB・C街区の維持管理 ・「SKIPシティにおける最先端の映像制作拠点の整備等に関する要望書」をNHKへ提出。	項目	実績	単位
		B・C街区の除草	2	回
		要望書の提出	1	回
事業の成果 【定性的評価】	埼玉県と協議のうえ、「SKIPシティにおける最先端の映像制作拠点の整備等に関する要望書」をNHKへ提出した。			

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	SKIPシティ利活用検討協議会の開催回数			指標・目標値の説明(算定式)	B・C街区の利活用について埼玉県と協議する非公開の協議会の開催日数
	単位	回	指標の種別	活動		
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況	1	達成	0	未達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)	
	単位		指標の種別			
	目標値	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度
	実績値・達成状況					

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	002細目	03細々目	NHK跡地整備事業			
年度	27年度	28年度			29年度		30年度		31年度	
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		6,944			6,393		6,119		6,119	
決算額(B)		5,350			5,105					
財源	特定財源	0			0		0			
	一般財源	5,350			5,105		6,119			
概算人件費(C)	4,920			4,680		4,740		4,740		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00	0.60	0.00
総事業費(A又はB+C)	10,270			9,785		10,859		10,859		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	どちらともいえない	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	13 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
54 /60	B・C街区の整備にあたっては、関係機関と綿密に連携、協議していく必要がある。	30年度 縮小して実施 31年度 現状維持で実施 32年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調査

評価対象年度 29年度

事業コード	35300202	事業名称	映画祭関連事業	事業区分	主要な事業 政策宣言10
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	2447	新規・継続

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 15 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	SKIPシティ国際映画祭開催基本方針

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの) ・映像クリエイター ・映像関連産業関係者 ・映画祭来場者	受益者(最終的に受益を受ける人) 同左	
事業の概要	事業の目的(何のために) 世界各国からデジタルで制作された映画を集め、優秀作品を上映し表彰していくことを通じて、「デジタルシネマ」の裾野を広げ、新しいクリエイターを発掘するとともに、将来本市の産業の核となる映像関連産業の育成に役立てていくことを目的に開催している。	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか) ○世界中から募集した作品に対し顕彰する。 ○受賞者への活動サポートや、クリエイターの市場参入を支援するイベントを開催する。 ○話題作・最新作の上映や、地域ぐるみで賑わいを創出するためのイベントを開催する。	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか) 7月15日(土)から23日(日)までSKIPシティ国際Dシネマ映画祭2017を開催した。オープニング作品では川口を撮影場所とした『ANIMAを撃て!』を上映したほか、各種イベントを実施した。	主な実績 項目 実績 単位	
事業の成果 【定性的評価】	本映画祭において、デジタルで制作され世界から集められた映画のなかでも優秀作品を上映することで、「デジタルシネマ」における新しいクリエイターの発掘につながった。また、前年度以上の来場者数を記録し、さらなる映像関連産業の育成と振興に寄与した。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	SKIPシティ国際Dシネマ映画祭着席率			指標・目標値の説明(算定式) 総設定席数に対する入場者数の割合 入場者数÷総設定席数×100(%) (最大の入場者数であった26年度基準) (9,104人)÷		
	単位	%	指標の種別	結果			
	目標値	28年度	29年度	30年度		31年度	32年度
	実績値・達成状況	57.20	未達成	60.50		未達成	
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)		
	単位		指標の種別				
	目標値	28年度	29年度	30年度		31年度	32年度
	実績値・達成状況						

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	002細目	05細々目	映画祭関連事業			
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		25,048		25,000		60,000		25,000		
決算額(B)		25,000		25,000						
財源	特定財源	0		0		0				
	一般財源	25,000		25,000		60,000				
概算人件費(C)		4,510		4,290		5,530		4,345		
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.55	0.00	0.55	0.00	0.70	0.00	0.55	0.00
総事業費(A又はB+C)		29,510		29,290		65,530		29,345		

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	15 /15	有効性	期待どりの成果	期待以上	15 /15
	市関与の必要性	高かった			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	13 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	検討した			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性
58 /60	本映画祭においては前年に比べて多くの来場者が訪れたが、その半数は前年とそれ以前からのリピーターが多い。今後は、新規の来場者を見込めるように今後も周知を徹底していく必要がある。	30年度 拡充して実施 31年度 縮小して実施 32年度 現状維持で実施

実施計画事業評価調書

評価対象年度 29年度

事業コード	35300302	事業名称	映像関連普及事業			事業区分	主要な事業 政策宣言10
担当	経済部	産業労働政策課	問い合わせ先	2447	新規・継続	継続	

1 事業期間・根拠等

事業期間	平成 14 年度 ~ 年度
第5次川口市総合計画	Ⅲ 産業や歴史を大切にしたい“地域の魅力と誇りを育むまち” - 5 地域資源の活用 - ③ SKIPシティを活用した地域の活性化
根拠法令等	

2 事業概要

事務分類	自治事務のうち任意のもの	実施形態	全部委託
事業対象	事業の対象(市民等、団体、もの)	受益者(最終的に受益を受ける人)	
	川口市内の小学生	同左	
事業の概要	事業の目的(何のために)	事業の内容(事業期間を通して何をやるのか)	
	映像産業を核とした次世代産業の導入・集積のための人材育成の一環として、小学生対象のコンピューターグラフィックス(CG)教室等を通して、映像制作スキルの高い人材を育成する。	株式会社デジタルSKIPステーションに業務委託し、SKIPシティ内のマルチメディアコーナーで、小学生にCG画像制作を体験させた。また、演出、主演、撮影、編集と映画制作の全ての作業に携わり、子どもたちの手によってゼロから映画を制作した映像作品の上映会も行った。	
29年度の 実施内容	具体的な実施内容(当該年度に何をしたのか)	主な実績	
	川口市内の小学生対象のCG制作体験教室と映画の製作。CG制作体験教室では、自身でアニメーションを制作し作品画像のポストカード(持ち帰り用)を作成。映画製作では、企画・脚本・絵コンテ作成から撮影・編集まで、参加者全員で短編映画を製作。	項目	実績
事業の成果 【定性的評価】	川口市内の小学生がCG教室や短編映画製作を通して映像制作全般に対する興味・関心を持つことができ、次世代の映像産業における人材育成につながった。		

3 事業活動・成果の状況

指標①	名称	参加率			指標・目標値の説明(算定式)	総設定席数に対する参加率(欠席者含む) 参加者(欠席者含む)270人÷総設定席数270×100=100 (H28年実績)				
	単位	人	指標の種別	成果						
	目標値	28年度		29年度		30年度		31年度		32年度
	実績値・達成状況	100		100		100				
指標②	名称				指標・目標値の説明(算定式)					
	単位									
	目標値	28年度		29年度		30年度		31年度		32年度
	実績値・達成状況									

4 年度別事業費(単位:千円)

予算費目	一般会計	07款	01項	02目	002細目	04細々目	映像関連普及事業			
年度	27年度	28年度		29年度		30年度		31年度		
予算現額(A) ※H30以降は当初予算額		5,185		5,185		4,645		4,645		
決算額(B)		5,185		5,185						
財源	特定財源	0		0		0		0		
	一般財源	5,185		5,185		4,645		4,645		
概算人件費(C)	1,230		1,560		1,580		1,580			
従事職員人数(人)	常勤	再任用	0.15	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00	0.20	0.00
総事業費(A又はB+C)	6,415		6,745		6,225		6,225			

※評価年度以前は決算額(B)の財源を、評価年度の翌年以降は当初予算額(A)の財源を表示しています。

5 視点評価

視点	評価項目	判定	視点評価	視点	評価項目	判定	視点評価
必要性	現在の市民ニーズ	高かった	13 /15	有効性	期待どおりの成果	期待どおり	13 /15
	市関与の必要性	どちらともいえない			施策(上位目的)への貢献	高かった	
	将来的な市民ニーズ	見込める			目的に対する事業内容	適正	
効率性	コストに対する成果	高かった	15 /15	公平性	受益者の資格条件	適正	15 /15
	業務プロセス改善	行った・既に行った			受益者負担の水準	適正	
	民間活用	行った・既に行った			対象者への周知	十分行った	

6 総評価【定量的評価】・今後の事業展開

総評価	事業を実施する上での課題及び改善方策	今後の実施方向性	
56 /60	映像制作全般に対する興味・関心を引くことができたが、さらに体験したい工程があるとの要望が多いので、事業内容についてさらに検討する必要がある。	30年度	現状維持で実施
		31年度	現状維持で実施
		32年度	現状維持で実施